

2022年7月12日

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社
三井住友海上あいおい生命保険株式会社
三井住友海上プライマリー生命保険株式会社

～認知症の早期発見により社会課題を解決～

米国FDAの医療機器承認技術を応用したAI認知機能測定 「OptiMind」の実証実験を開始

MS&ADインシュアランスグループの三井住友海上あいおい生命保険株式会社（社長：加治 資朗、以下「MSA生命」と三井住友海上プライマリー生命保険株式会社（社長：永井 泰浩、以下「MSP生命」）は、認知機能測定サービス「OptiMind」の有用性を確認するため、2022年7月11日から、両社の社員とその家族を対象とした実証実験を開始しました。

「OptiMind」は、カナダに本社を置く Cognetivity NeuroSciences 社（以下「CN社」）が提供する、米国FDA（※1）の医療機器承認技術を応用したサービスで、グループのCVCであるMS&ADベンチャーズ社とのガレージ活動（※2）で探索しました。

MS&ADインシュアランスグループでは、今後も、リスクソリューションのプラットフォーマーとして先進的なデジタル技術を活用し、健康増進や病気の予防・早期発見・重症化予防などに役立つヘルスケアサービスを充実させていきます。

※1：アメリカ食品医薬品局（Food and Drug Administration）の略。

※2：MS&ADグループの社員を対象としたプログラムで、MS&ADベンチャーズ社が、先進技術や新しいサービスの開発に関わる投資家やベンチャー企業が集まる米国シリコンバレーから、自国で解決できないビジネス課題（＝ペインポイント）を解決できる先進技術や新しいサービスの発掘を支援するもの。

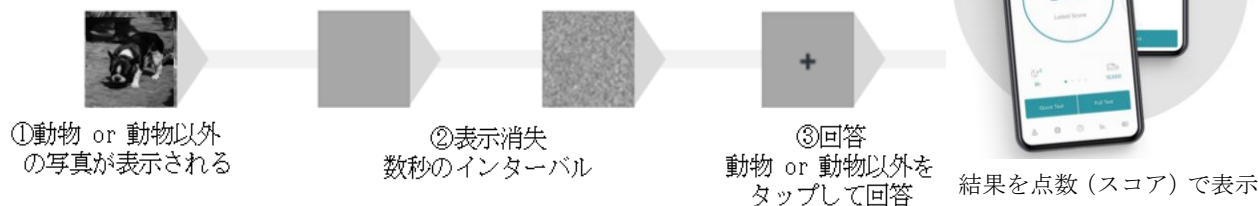
1. 「OptiMind」について

スマートフォンを使って、視覚的分類テスト（※3）、睡眠や運動量等の生活習慣から、認知機能の健康度合いをAIが点数（スコア）化するアプリケーションです。認知機能の状態を自身で把握可能なため、日常生活で継続的にアプリケーションを利用することで、スコアの変動を捉えることができ、認知機能の低下に不安がある高齢者だけではなく、記憶力や思考力、判断力など脳の健康への関心が高い40代以上のビジネスパーソンにも有用な仕組みとなっています。

※3：視覚的分類テストは、脳神経外科医が認知症の疑いを診断する医療ソフトウェアとして、CN社が、米国FDAから医療機器として承認を受け、従来の長時間に及ぶ負担感の高い認知症テストに替わる検知ツールとして開発しました。その技術を応用し、個人ユーザがセルフケアツールとして使用できるよう「OptiMind」を通じて視覚的分類テストを提供しています。

■視覚分類テスト

画像が一瞬だけ表示されます。それを動物か非動物か（建物やコップなど）を判断し、数分間、次々とスマートフォンをタップして分類することで、スピード・正確さをAIがスコア化。このテストは、人間の脳が動物を認知した際の刺激に強く反応する点を利用しています。



2. 今後の展開

MSA生命・MSP生命では、今般の実証実験を通じて有用性が確認でき次第、必要となる準備を整え、お客さま向けのサービス展開することを想定しています。簡易に認知機能の低下・認知症の兆候を把握することで、認知症の早期発見・治療につなげ、社会課題への解決につながる取組みを進めていきます。

(ご参考) Cognetivity NeuroSciences 社について

Cognetivity (本社: カナダ・バンクーバー、CEO: DR SINA HABIBI、設立: 2015年12月) は、認知機能検査プラットフォームを開発したバイオテクノロジー企業です。CognetivityのCognICA™ は、人工知能と機械学習技術を用いて、初期段階で特に記憶障害の発症前に影響を受ける脳機能をターゲットとすることで、認知機能障害の早期発見を支援します。CognICA™ は現在、米国、英国、欧州でサービスを提供しています。

以 上